

30年6月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 6月1日～ 30年6月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
6月分の回答企業数は10社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		30/6月	7月	8月
伐採動向	スギ	0.0	7.1	0.0
	ヒノキ	△ 10.0	0.0	10.0
	カラマツ	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
	エゾ・トド	25.0	25.0	25.0
出荷・販売動向	スギ	8.3	8.3	△ 8.3
	ヒノキ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	12.5	12.5	0.0
	エゾ・トド	25.0	25.0	25.0
手持立木在庫動向	スギ	8.3	△ 8.3	0.0
	ヒノキ	△ 12.5	0.0	0.0
	カラマツ	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
	エゾ・トド	0.0	16.7	16.7

・スギの伐採動向は6月の横ばいから7月は増加、8月は再び横ばいに。ヒノキは6月の減少から7月横ばい、8月は増加に。カラマツは3カ月連続減少。エゾ・トドは3カ月連続増加。

・スギの出荷・販売動向は6月、7月の増加から8月は減少に。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツは6月、7月の増加から8月は横ばいに。エゾ・トドは3カ月連続増加。

・スギの手持立木在庫動向は6月の増加から7月は減少、8月は横ばいに。ヒノキは6月の減少から7月、8月は横ばいに。カラマツは3カ月連続減少。エゾ・トドは6月の横ばいから7月、8月は増加に。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・国有林の素材生産請負事業を継続中（北海道）。
- ・6月より国有林のカラマツ間伐の素材生産請負に入る。地形が良く木の太さも良いので伐採動向はやや増加（北海道）。
- ・スギ・カラマツともに手山生産が減少となり、伐採は減少する見通し（東北）。
- ・福島県内で森林再生事業を実施中だが、やや減少の見通し（東北）。
- ・請負事業関係でスギ・ヒノキの伐採が増加（中部）。
- ・雨のため伐採減少。支障木の撤去作業が増え、通常のスギ・ヒノキの伐採作業が減少（中国）。
- ・スギ・ヒノキの主伐を実施中（中国）。

(出材・販売動向)

- ・国有林の素材生産請負事業を継続中（北海道）。
- ・流通材が少なく、各工場とも土場在庫が少ないので請負材の販売も増加が見込まれる（北海道）。
- ・スギ・カラマツとも販売は堅調だ（東北）。
- ・スギ・ヒノキの出材・販売は横ばいだが、ヒノキは韓国へ輸出している（中国）。

(手持ち立木在庫)

- ・国有林の素材生産請負事業を実施中のため、手持ち立木在庫に変動無し（北海道）。
- ・手持ちの立木在庫が少なくなっているため、国有林の立木公売でトドマツを購入する予定（北海道）。
- ・手持ち立木在庫は引き続き不足も急がずに手当てする（東北）。
- ・梅雨明けにスギ2,500m3増加予定（九州）。